

令和4年度「とちぎっ子学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立城東小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、令和4年度「とちぎっ子学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

本県児童生徒の学力や学習の状況等を把握・分析し、児童生徒一人一人の課題を明確にするとともに、各学校が組織的に学習指導における検証改善サイクルの構築・運用に取り組むことにより、本県児童生徒の学力向上に資する。

2 調査期日

令和4年4月19日(火)

3 調査対象

小学校 第4学年、第5学年（国語、算数、理科、質問紙）

中学校 第2学年（国語、社会、数学、理科、英語、質問紙）

4 本校の実施状況

第4学年	国語	69人	算数	69人	理科	69人
第5学年	国語	83人	算数	83人	理科	83人

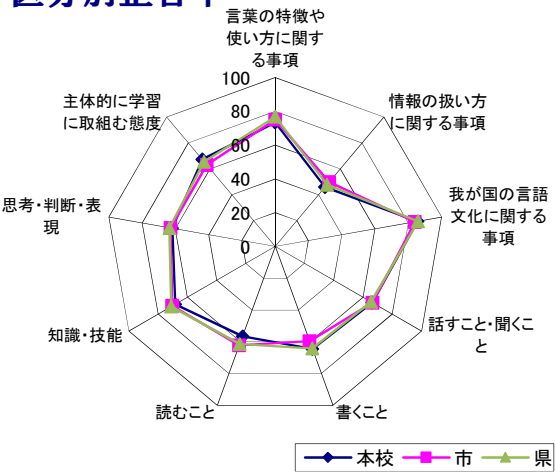
5 留意事項

- (1) 本調査は、対象となる学年、実施教科が限られていることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立城東小学校 第4学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	言葉の特徴や使い方にに関する事項	73.3	75.1	76.7
	情報の扱い方にに関する事項	45.9	49.6	47.8
	我が国の言語文化にに関する事項	85.5	84.0	85.9
	話すこと・聞くこと	66.4	66.5	65.5
	書くこと	64.5	59.6	64.2
	読むこと	56.5	62.2	61.5
観点	知識・技能	68.3	70.2	71.1
	思考・判断・表現	61.9	62.9	63.6
	主体的に学習に取り組む態度	67.2	63.0	65.5



★指導の工夫と改善

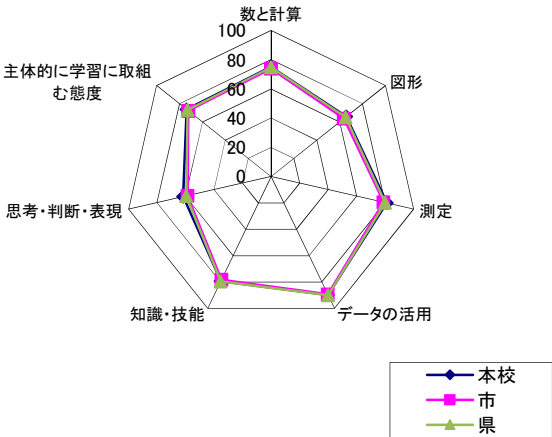
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使い方にに関する事項	●「言葉の特徴や使い方にに関する事項」の正答率は、県や市の平均を下回っている。 ○ローマ字で表記されたものを正しく読む問題では、県の平均正答率を3.7ポイント上回っている。 ●漢字を書く問題では、どの設問も県の平均正答率を上回っているものの、「こうたい」と読み方を答える設問だけ、5.8ポイント下回っている。	・校内漢字検定を活用し、漢字の学習意欲を高め、さらに習得を図る。 ・朝の学習や宿題などで、既習漢字を定期的に復習するようにするなど、漢字の学習をする機会を増やし、慣れ親しむようにする。特に、読み方については、複数ある読み方を正しく理解できるよう指導を行う。
情報の扱い方にに関する事項	●「情報の扱いにに関する事項」の正答率は、県や市の平均を下回っている。 ○情報と情報との関係について理解し、考えとそれを支える理由との関係を明確に記述する問題では、県の平均正答率を4ポイント上回っている。 ●情報と情報との関係について理解し、話し手が伝えたいことの中心を捉える問題では、県の平均正答率を6.5ポイント下回っている。	・いくつかの情報を整理し、話や文章の全体を大づかみに捉え、話し手の伝えたいことの中心を把握できるよう指導を行う。 ・国語の授業での文章の読み取りを通して、文章の全体と筆者が伝えたいことの中心との関係性を押さえながら指導を行う。
我が国の言語文化にに関する事項	○「我が国の言語文化にに関する事項」の正答率は、県や市の平均正答率を上回っているものと下回っているものがある。 ○漢字のへんやつくりに関する問題では、県の平均正答率を0.4ポイント下回っている。	・漢字辞典で部首索引を使って漢字を集めたり調べたりする活動を折に触れ取り入れ、漢字がへんやつくりなどから構成されていることに興味をもちながら学習できるよう、指導を行う。また、新出漢字の学習の際にも、へんやつくりなどの漢字の部首に着目して指導を行う。
話すこと・聞くこと	○「話すこと・聞くこと」の正答率は、県や市の平均正答率を上回っているものと下回っているものがある。 ○話の中心を明確にするための話し手の工夫を捉える問題では、県の平均正答率を8.4ポイント上回っている。 ●相手に伝わるように、自分の考えを、理由を挙げながら記述する問題では、県の平均正答率を0.3ポイント下回っている。	・話合いの内容を聞き取る活動では、話し手が伝えたいことの中心を捉えながらメモを取ることができるよう指導を行う。 ・話し手の意見に賛成か反対かを考え、理由を挙げながら聞き手に伝わる話し方ができるよう指導を行う。
書くこと	○「書くこと」の正答率は、県や市の平均正答率を上回っている。 ○指定された長さで文章を書く問題では、県の平均正答率を5.8ポイント上回っている。 ●段落の役割について理解し、2段落構成で文章を書く問題では、県の平均正答率を9.2ポイント下回っている。	・書くことの指導において、伝える相手や目的に応じて、書く材料の収集の仕方やまとめ方を工夫し、中心となる内容を明確に記述できるよう、指導を行う。 ・文章を書く活動では、内容のまとまりで段落を作ったり、段落相補の関係に注意したりして文章の構成を考えるよう指導していく。
読むこと	●「読むこと」の正答率は、県や市の平均正答率を下回っている。 ●物語文の内容を読み取る問題では、どの設問も県の平均正答率を同程度か下回っているが、文章を読んで感じたことや変わったことを共有する設問の平均正答率を11.8ポイント下回っている。	・物語文では、叙述を基に場面の様子や登場人物の気持ちの変化などを読み取ることができるよう、教科書にある物語の読み取りを通して指導を行う。 ・説明文では、文と文との意味のつながりを理解させたり、中心となる言葉を見つけたりするために、指示語や接続語、文末表現などに着目しながら内容を捉えるような学習活動を行うようにする。

宇都宮市立城東小学校 第4学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	75.1	73.8	74.8
	図形	65.8	63.7	65.3
	測定	81.2	78.9	80.1
	データの活用	89.9	89.3	90.0
観点	知識・技能	79.4	78.3	79.5
	思考・判断・表現	61.7	58.6	59.5
	主体的に学習に取り組む態度	73.9	72.3	73.1



★指導の工夫と改善

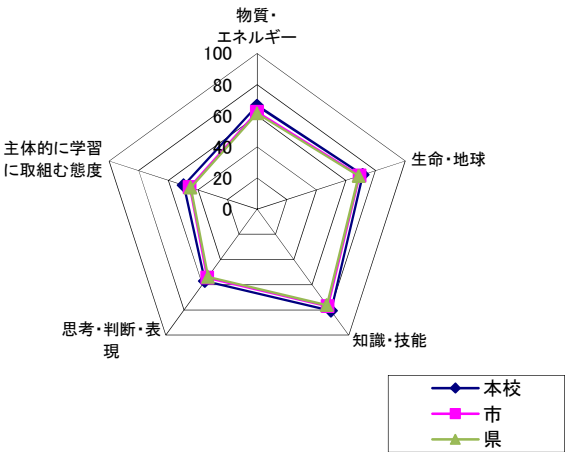
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	○「数と計算」の正答率は、県や市の平均正答率を上回っている。 ○分子が1の分数が何個で1になるかを考える問題では、県の平均正答率を6.6ポイント上回っている。 ●数の相対的な大きさについて考える問題では、県の平均正答率を7.0ポイント下回っている。 ●四則計算の問題では、県の平均正答率と同等、または、下回っている。特に、2けた×1けた＝3けたの計算では、8.1ポイント下回っている。	・朝の学習や計算検定などを通して計算の習熟を図り、個に応じた指導をするとともに、一人一人の計算技能の向上に努める。 ・計算問題に苦手意識をもつ児童が多く見られるため、学習意欲を高める教材教具の工夫に努める。
図形	○「図形」の正答率は、県や市の平均正答率を上回っている。 ○円の半径とコンパスの使い方を考える問題では、県の平均正答率を6.0ポイント上回っている。 ●円の中心と円周上の2点を結んでできる三角形が二等辺三角形になる理由を説明する問題では、県の平均正答率と同等だが、13.0ポイントと低い。	・図形の学習では、実際に図や模型、道具を使った体験的な活動を通して理解を深められるよう、教材・教具の工夫に努める。 ・授業の中で、図形の描き方や自分の考えを説明したり、ノートにまとめたりする機会を増やしていく。
測定	○「測定」の正答率は、県や市の平均正答率を上回っている。 ●身近にあるものの重さを推察して適切な単位を使って表す問題では、県の平均正答率を上回っているものの、正答率は低い。	・算数の授業だけでなく、社会や理科などの他教科や日常生活の中で、長さや重さを推察し適切な単位を使う機会を設けていく。
データの活用	○「データの活用」の正答率は、県や市の平均正答率と同等である。 ○余りを切り上げて処理する問題を解き、その理由を説明する問題では、県の平均正答率を9.4ポイント上回っている。 ●棒グラフの読み取りに関する問題では、県の平均正答率を2.8ポイント下回っている。	・様々な項目のグラフを読む練習を繰り返したり、必要な情報を正確に選び、出題されている文章との整合性を判断したりする学習を取り入れる。 ・算数の授業だけでなく、社会や理科などの他教科と関連させたり、日常生活の中で表やグラフを使う機会を増やしたりしていく。

宇都宮市立城東小学校 第4学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	物質・エネルギー	66.5	62.5	61.5
	生命・地球	71.4	69.2	68.6
観点	知識・技能	80.8	77.2	76.3
	思考・判断・表現	57.1	54.4	53.7
	主体的に学習に取り組む態度	49.6	45.5	44.9



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
物質・エネルギー	○「物質・エネルギー」の正答率は、県や市の平均正答率を7～8ポイント上回っている。問題の内容別に見ても、県の平均正答率を上回っているものが多い。 ○「音の性質」については、すべての問いにおいて、県の平均正答率を約8ポイント上回っている。 ○「電気の通り道」については、回路を理解し、豆電球の明かりのつき方を推測する問題で、県の平均正答率を15ポイント上回っている。 ●「物の重さ」については、平均正答率は上回っているものの、正答率が25ポイントを下回っている。	・既習内容や児童の生活経験を基に、予想や仮説をもたせて観察、実験を行い、実感を伴った理解ができるようにする。 ・基礎的な観察・実験の器具の操作方法について、実際の操作を繰り返し行うことで理解を深める。 ・学習した内容を基に、さらに発展的な考察ができるように、基礎的な知識について細やかな指導を行い、既習の内容の定着を図る。
生命・地球	○「生命・地球」の正答率は、県や市の平均正答率を上回っている。問題の内容別に見ても、多くの問題において県の平均正答率を上回っている。 ○「太陽と地面のようす」については、すべての問題で、県の正答率を上回っている。特に温度の変わり方を比較する方法を考える問題では、県の正答率を7ポイント上回っている。 ●「身近な自然の観察」で、虫眼鏡の使い方を身に付ける問題では、県の正答率を7ポイント下回っている。	・観察、実験の意図や目的を考えさせ、主体的に取り組めるようにする。 ・学習した内容を正しく理解できるように、観察、実験の結果から考察したことなどを全体でしっかりと共有するようにする。

宇都宮市立城東小学校 第4学年 児童質問紙調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「家庭での学習」に関する質問では、「家で学校や塾の決められた宿題のほかに自分で考えた勉強をしている」に肯定的回答をした児童の割合と、「学校の授業時間以外に、ふだん(月～金曜日)、1日当たり1時間以上勉強をしている」「土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1日当たり1時間以上勉強している」に肯定的回答をした児童の割合が、市の平均を上回った。本校児童が、宿題だけでなく自主学習にも進んで取り組んでいることがうかがえる。

○「学ぶ意欲」に関する質問では、「勉強していて、おもしろい、楽しいと思うことがある」「できるだけ自分一人の力で課題を解決しようとしている」「学習して身に付けたことは、しょう来の仕事や生活の中で役に立つと思う」に肯定的回答をした児童の割合が、県・市の平均を上回った。本校の児童が、知的好奇心や向上心をもって、意欲的に学習に取り組んでいることがうかがえる。

○「学校での様子」に関する質問では、「授業を集中して受けている」「学校のきまりを守っている」に肯定的回答をした児童の割合が、県・市の平均を上回った。このことから、本校児童が授業に集中して取り組み、学校のきまりを守って生活していることがうかがえる。

○「自分自身のこと」に関する質問では、「毎日、朝食を食べている」「早ね、早起きを心がけている」に肯定的回答をした児童の割合が、県・市の平均を上回った。このことから、本校児童は、基本的な生活習慣が身に付いていることがうかがえる。

●「家庭での学習」に関する質問では、「家で、学校の授業の予習をしている」「家で、テストでまちがえた問題について勉強をしている」に肯定的回答をした児童の割合が、県・市の平均を下回った。家庭学習の内容について、予習やテストの復習に取り組むよう指導していきたい。

●「学校での様子」に関する質問では、「友達と話し合うとき、友達の話や意見を最後まで聞くことができる」に肯定的回答をした児童の割合が、県・市の平均を下回った。自分の意見を発表することだけでなく、友達の話を聞いて、その意見を肯定的に受け入れ、聞くことの大切さを指導していきたい。

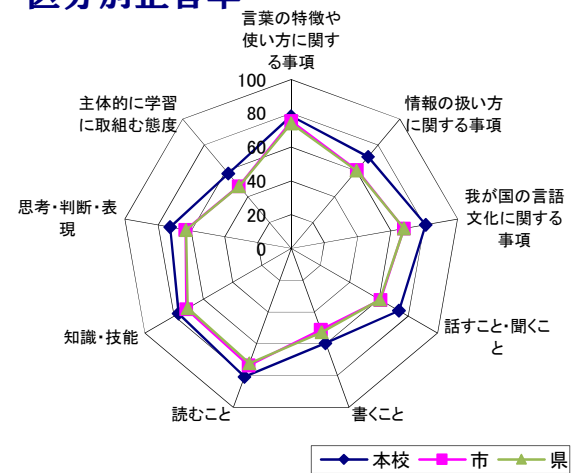
●「自分自身のこと」に関する質問では、「だれに対しても、思いやりの心をもってせっている」に肯定的回答をした児童の割合が、県・市の平均を下回った。だれに対しても、思いやりの心をもって接するよう、道徳科や学級活動等の授業を通して支援したい。

●「家族のこと」に関する質問では、「家でのきまりや約束を守っている」に肯定的回答をした児童の割合が、県・市の平均を下回った。家でのきまりや約束を守ることの大切さを指導したい。

宇都宮市立城東小学校 第5学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	言葉の特徴や使い方にに関する事項	78.4	75.4	74.1
	情報の扱い方にに関する事項	70.9	60.5	60.2
	我が国の言語文化にに関する事項	80.8	67.7	67.8
	話すこと・聞くこと	73.6	61.0	60.7
	書くこと	59.6	51.2	52.8
	読むこと	80.8	73.7	72.4
観点	知識・技能	77.0	71.7	70.6
	思考・判断・表現	72.7	63.5	63.2
	主体的に学習に取り組む態度	57.9	48.2	48.1



★指導の工夫と改善

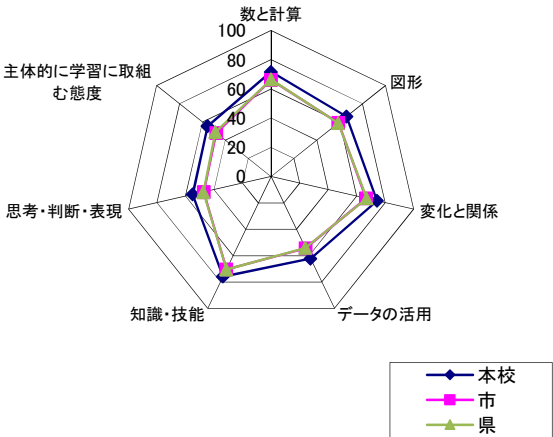
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使い方にに関する事項	○「言葉の特徴や使い方にに関する事項」の平均正答率は、市の平均正答率をやや上回っている。 ○漢字を書く問題では、正答率が高く、ほぼ8割の正答率である。 ●連用修飾語の問題では、正答率が低く、県の平均正答率を5.6ポイント下回っている。	・言葉の学習において、文章の中でどのように使われるかやどの言葉を詳しく説明しているかを意識しながら学習することで定着を図る。
情報の扱い方にに関する事項	○「情報の扱い方にに関する事項」の平均正答率は、市の平均正答率を10ポイント以上、上回っている。 ○情報と情報の関係について理解し、中心となる語や文を見付けて要約する問題では、正答率が高く、県の平均正答率を15.3ポイント上回っている。 ●理由や事例などを挙げながら説明する問題では、県の平均正答率を上回っているものの、平均正答率が50%とやや低い。	・今後も、説明文指導において、段落相互の関係を意識できる指導を心掛けていく。 ・自分の考えを述べる時に、理由や事例などを挙げて説明する場を多く設ける。
我が国の言語文化にに関する事項	○「我が国の言語文化にに関する事項」の平均正答率は、県や市の平均正答率を大きく上回っている。 ○ことわざの問題では、正答率が高く、県の平均正答率を13ポイント上回っている。	・今後も、ことわざを授業で積極的に取り上げ、言語文化に関する知識の向上を図る。
話すこと・聞くこと	○「話すこと・聞くこと」の平均正答率は、県や市の平均正答率を上回っている。 ○意見の共通点や相違点に着目して、考えをまとめる問題では、正答率が高く、県の平均正答率を21.5ポイント上回っている。	・今後も、自分の考えをもち、他者に話す活動を取り入れ、話すこと・聞くことの向上を図る。
書くこと	○「書くこと」の平均正答率は、県や市の平均正答率を上回っている。 ●指定された長さで文章を書く問題では、県の平均正答率を上回っているが、正答率は65%程度とやや低く、無回答率も高い。	・文章を書くときには、伝えたいことをメモに表して内容をよく整理し、自分の考えをまとめられるように指導する。
読むこと	○「読むこと」の平均正答率は、県や市の平均正答率を上回っている。 ○登場人物の性格について、具体的に想像する問題では、県の平均正答率と比べて11.1ポイント上回っている。 ●登場人物の気持ちについて、叙述を基に捉える問題では、県の平均正答率を上回っているものの、平均正答率が50%とやや低い。	・物語の学習において、登場人物の気持ちや心情について話し合ったり、書いたりする活動を積極的に取り入れていく。

宇都宮市立城東小学校 第5学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	71.7	66.1	66.4
	図形	65.9	58.9	58.8
	変化と関係	74.4	66.6	67.0
	データの活用	62.2	54.4	54.2
観点	知識・技能	75.9	70.4	70.6
	思考・判断・表現	55.0	47.2	47.5
	主体的に学習に取り組む態度	55.5	47.8	48.8



★指導の工夫と改善

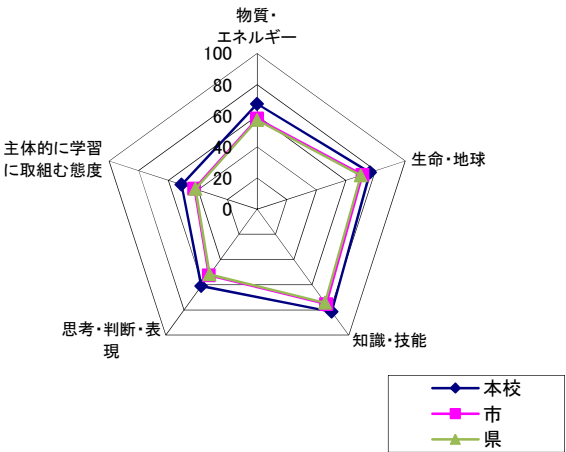
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	○「数と計算」の正答率は、県の平均正答率を5.3ポイント、市の平均正答率を5.6ポイント上回っている。 ○小数や分数の計算、四則計算は概ねよく定着している。 ●億と兆・がい数の表し方についての問題では、県の平均正答率を6.4ポイント下回っている。	・本校独自の計算検定(年間10回)を活用して、計算技能の定着に努める。 ・数字が何の位を表すかを確認したり、四捨五入や「以上」「以下」「未満」などの言葉を使って数を表したり、およその数を見積もる練習をしたりする機会を多く取り入れ、概数の意味や表し方の理解を深める。
図形	○「図形」の正答率は、県の平均正答率を7.1ポイント、市の平均正答率を7ポイント上回っている。 ○分度器の中に示された角の大きさを読み取る問題では、正答率が90%を超えており、県の平均正答率を10.2ポイント上回っている。 ●およその面積を求める問題では、県の平均正答率を2.5ポイント下回り、正答率も34.6%と低い。	・図形について、既習の基礎的・基本的な知識・技能を確認しながら指導し、反復学習を行うことでさらなる定着を図る。 ・面積の求め方や作図の仕方などは、デジタル教科書や実物投影機などを用いて視覚的に捉えさせ、理解を深める。児童の理解度に応じた練習機会を設けるなどして、指導の充実に努める。
変化と関係	○「変化と関係」の正答率は、県の平均正答率を7.4ポイント、市の平均正答率を7.8ポイント上回っている。 ○割合の問題では、どの問題でも正答率は70%を超えている。伴って変わる2つの数量の関係を式に表す問題では、県の平均正答率を11.1ポイント上回っている。 ●伴って変わる2つの数量の一方の値からもう一方の値を求める問題では、県の平均正答率を0.7ポイント下回っている。	・表や文章から数量の変わり方を読み取ったり、数量の関係を割合を使って説明したりする活動を取り入れることで、数量関係の変化の読み取りや計算への理解を深める。 ・図を活用しながら式を立てる練習を繰り返し行うことで理解を深め活用できるようにする。
データの活用	○「データの活用」の正答率は、県の平均正答率を8ポイント、市の平均正答率を7.8ポイント上回っている。 ○折れ線グラフから変わり方を読み取る問題では、県の平均正答率を13.2ポイント上回っている。 ●違いを求めるのに必要な二次元表を示し、その求め方を説明する問題では、県の平均正答率を5ポイント上回っているものの、正答率は25.6%と低い。	・折れ線グラフや表などを正確に読み取ったり、根拠を明確にして説明したりする活動を取り入れることで、分類整理の考え方を正しく理解する力を伸ばす。 ・日常生活や他教科での学習を通して、様々なグラフや表を活用する機会を増やしていく。

宇都宮市立城東小学校 第5学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	物質・エネルギー	67.6	58.1	57.2
	生命・地球	76.2	71.1	70.0
観点	知識・技能	81.5	75.5	74.4
	思考・判断・表現	61.2	52.7	51.9
	主体的に学習に取り組む態度	51.0	42.4	41.7



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
物質・エネルギー	○「物質・エネルギー」領域の正答率は、県や市の平均正答率を約10ポイント上回っている。 ○乾電池を2個使って乾電池が1個のときよりも速く走る車にするための回路を作図する問題では、県の平均正答率を20ポイント以上上回っている。 ●水を熱したときの温度変化を表す折れ線グラフをもとに、水の量のちがいと沸騰する温度を関係付けて記述する問題では、県の平均正答率を約6ポイント上回っているが、正答率は低く、無回答率も高い。 ●湯気が液体であることを答える問題では、県の平均正答率を約4ポイント上回っているが、正答率は低い。	・実験、観察の結果を表やグラフに整理してまとめるようにし、結果から考えられることについて意見を交換しながら、内容の理解を深めるようにする。 ・導入や考察において、自分の考えを書いたり話したりする機会を設け、課題について根拠のある予想をしたり、学んだことを身の回りの現象に結び付けたりすることができるようにする。
生命・地球	○「生命・地球」領域の正答率は、県や市の平均正答率を5ポイント以上上回っている。 ○「自然の中の水」では、すべての問題で正答率が約9割と高く、水を入れて覆いをしたビーカーの数日後の様子を指摘する問題では、県の平均正答率を約13ポイント上回っている。 ●記録温度計の記録から、天気の変化を推測する問題では、県の平均正答率とほぼ同じであるが、正答率は約3割と低く、課題が見られる。 ●気温の変化のグラフとヘチマのくきののび方を関係付けて考える問題では、県平均を3ポイント上回っているが、正答率は低い。	・天気の変化については、学習した内容から実際の気温の変化に関係付けて天気を捉える活動を行い、実感が伴った理解が深まるようにする。 ・1年間の植物の成長では、観察の際に、気温とくきののび方についての記録を行うとともに、写真も撮影し、成長の様子を視覚的にも捉えられるように工夫する。

宇都宮市立城東小学校 第5学年 児童質問紙調査

★傾向と今後の指導上の工夫 ○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「家庭での学習」の質問では、「家で、学校の宿題をしている」に肯定的回答をした児童が、県や市の平均を上回っている。与えられた学習をしっかりと行おうとしている児童が多いことが分かる。

○「学ぶ意欲」に関する質問では、「勉強していて、おもしろい、楽しいと思うことがある」に肯定的回答をしている児童が、県や市の平均を上回っている。学ぶ意欲が高い児童の姿がうかがえる。

○「学校での様子」の質問では、「毎日の生活がじゅう実していると感じる」「授業では、自分の考えを発表する機会があたえられている」「先生は学習のことについてほめてくれる」「授業で分からないことがあると、先生に聞くことがある」の肯定的回答をした児童が、県や市の平均を上回っている。日々の生活に満足し、授業についても前向きな姿が見られる。

○「家での生活」の質問では、「毎日朝食を食べている」に肯定的回答をした児童が、県の平均と同じである。朝食をとることの大切さや習慣が身に付いている児童の姿がうかがえる。

○「自分自身のこと」の質問では、「自分は勉強がよくできる方だと思う」「自分にはよいところがあると思う」の肯定的回答をした児童が、県や市の平均を上回っている。学習や運動などでがんばったことを通して、自己肯定感が高まっていることがうかがえる。

○「家族のこと」の項目では、「自分は家族の大切な一員だと思う」の肯定的回答をした児童が、県や市の平均を上回っている。家族の一員として家の人から大切にされていると感じている様子がうかがえる。

○「教科の学習のこと」の質問では、どの教科も将来役に立つと前向きにとらえ、必要性を感じながら学習に臨んでいる姿がうかがえる結果となっていた。

●「家庭での学習」の項目のうち、「家で学校の授業の復習をしている」「家で学校の授業の予習をしている」「家で、テストでまちがえた問題について勉強している」に肯定的回答をした児童が、県や市の平均を下回っていた。家庭学習での予習・復習をすることの大切さについて確認し、しっかりと復習をしたうえで予習をするように指導していくことが必要である。

●「学ぶ意欲」に関する質問のうち「むずかしい問題にであうと、よりやる気が出る」に肯定的回答をした児童が、県や市の平均を下回っていた。学習意欲が高い反面、難易度が高くなるとあきらめてしまう傾向にあるので、どんな問題にも粘り強く取り組むことの大切さや、難易度が高い問題が解けた時の嬉しさが感じられるよう、児童一人一人が、自分のできたことに自信をもって学習を進めていけるようにすることが必要である。

宇都宮市立城東小学校（第4・5学年共通）
学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
基礎的・基本的な知識・技能の定着	本校では、「校内漢字・計算検定」を年間10回実施したり、市のステップアップシート(ミヤリーテスト)を活用したりして、基礎基本の定着に努めている。また、朝の学習(パワーアップタイム)を各学級ごとに計画的に実施し、プリントやドリル学習を行っている。	国語では、「言語の特徴や使い方に関する事項」の正答率は、4年は0.4ポイント下回っているが、5年は4.3ポイント上回っている。漢字の書きについての設問では、無回答率が高いものがある。また、昨年度課題であった4年のローマ字についての設問では、県の平均正答率を3.7ポイント上回っている。 算数では、「数と計算」の基本的な内容の設問において、正答率が高いものの、4年の2けた×1けた=3けたの計算では、8.1ポイント下回っている。5年の小数のしくみの理解についての設問において億と兆・がい数の表し方についての問題では、県の平均正答率を6.4ポイント下回っており、課題が見られる。
ノート指導の充実	校内ノートコンクールを年2回実施している。低・中・高学年、それぞれの発達段階に応じて明確な目標を設定し、学校全体で分かりやすいノートづくりの指導を行っている。自分や友達のをノートにまとめる時のきまりやマークを校内で統一している。模範となるノートを展示し、同学年、他学年のノートを見ることで、児童がよりよいノートづくりを意識できるようにしている。	国語の「書くこと」の領域では、4年、5年とも県の平均正答率を上回っている。質問紙において「授業の最後に振り返る活動を行っている」と回答した児童の肯定割合が、4年は、2ポイント下回り、5年は県平均より5.8ポイント下回っている。
児童が学ぶ楽しさを味わい、進んで考える授業づくり・学びの「城東スタイル」	学校課題「学ぶ楽しさを味わい、進んで考え参画する子供の育成～よりよい集団活動を通して、なりたい自分をつくる『城東スタイル』の構築～」を昨年度から継続し、児童が学ぶ楽しさを感じながら思考力・判断力・表現力を発揮して主体的に学習活動に取り組めるような授業づくりを目指している。めあてを明確にし、見通しをもって自ら課題に取り組んだり友達と学び合ったりできるような学習環境づくりに努めている。	本校では、どの教科も、「思考・判断・表現」の観点において、県や市の平均正答率をほぼ上回っている。また、「主体的に学習に取り組む態度」の観点の正答率も、ほぼ県や市と同等であるか上回っている。 質問紙において「授業であつかうノートには、学習の目標(めあて・ねらい)がしめされている」と回答した児童の肯定割合が、4年は、0.1ポイント下回り、5年は県平均より3.3ポイント上回っている。「クラスの友達との間で、話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている」の肯定割合が、4、5年とも県の平均を上回っている。

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	
4年国語の、文章を読んで感じたことや変わったことを共有する設問の平均正答率を11.8ポイント下回っている。 4年国語「情報の扱いに関する事項」の正答率は、県や市の平均を下回っており、正答率も45.9%と低い。 5年国語の、叙述を基に捉える問題では、県の平均正答率を上回っているものの、平均正答率が50%とやや低い。 4年、5年とも理科では、実験の結果を考察し記述する問題では、県の平均正答率を上回っているが、正答率は低く、無回答率も高い。	自分の考えを図や文章で表現し、他者に分かりやすく伝える力の育成	物語全体を見通して、登場人物の気持ちや行動を複数の叙述を基に捉えるために、説明する活動や自分の考えの理由付けをしたり、想像したことを文章にまとめ発表したりする活動を取り入れていく。 実験や観察後、学習問題に正対した考察をすることができるよう、結果を整理した後、改めて学習問題について振り返らせる活動を重視していく。 各教科等でめあてやねらいを明確にし、児童が自分の考えを表現したり、互いに考えを伝え合う活動が充実したりするような授業づくりを目指す。また、授業のまとめや振り返りにおいて、学習したことを考えさせ、目的を意識した文章が書けるように指導していく。